にしながお小学校だより

050-7102-9176（平日のみ 電話受付：8時30分~17時）

8月は戦争のことを知り、平和と夏休みを楽しむ月

夏休み号
令和７年８月11日
児童数351名

学校教育目標と　主体性と当事者意識を持って学級や学校を自治することを目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者となる児童を育成する。（「楽しい家庭をつくる大人」になることをめざします。）

めざす子ども像
１．心豊かな子ども（自他を大切にする、思いやりのある子ども）
２．深く考える子ども（自ら学び、考えて行動できる子ども）
３．健康で明るい子ども(きまりや約束を守りよく遊び、困難なことも最後までやり抜くための体力・気力をもった子ども)

みなさんの子ども達への教育を基本に言葉を磨き対話を高めていきましょう

長崎平和祈念式典で、被爆者代表の西岡洋さんが読み上げた「平和への誓い」は、被爆された当時のケガの生々しさと、一方で、ケガはさほど見られなかった方々が次第に次々となくなっていった事実を明らかにされ、聞く人の心にどれだけ戦争と原爆の被害の無念さをうったえかけたことでしょうか。西岡さん達の活動にノーベル平和賞が授与されたことは日本に住むものとして大変嬉しかったです。「平和につながるこの動き」を継承していきます。

また、鈴木長崎市長のことばの中の「たとえ一人ひとりの力は小さくとも、それが結集すれば、未来を切り開く大きな力に」「相手を知り、対話や交流を重ね、理解し、小さな信頼を重ねていく」ことなどから市民どうしのつながりを地球規模で交流すると宣言されました。全世界の人々が「地球市民」として平和をつくる行動をしようと話されています。国を超えた市民感覚「地球市民」は世界にも理解されやすい言葉ではないでしょうか。

そして、大石長崎県知事のことばの中の、「ここ長崎で消えることのない記憶は、決して人ごとではなく、いつでも「あなた」へ起こりうる現実である」ことからは、本校の学校教育目標にもある当事者意識の視点と関連しており、進むべき道標に向かって背中を押された感じがしました。

大石長崎県知事は、留学先の アメリカの大学の授業で「戦争を早く終わらせるために、原爆投下は正しかった」という意見の海外の学生にであったそうです。その場で、同知事は、「原爆は投下してはならなかった」との自分の意見や「長崎出身」を明らかにしたことで、その授業の雰囲気が一気に変わったという経験についてインタビューで語っていました。同知事は、その時を振返り「発言者の受けてきた教育の影響が大きかった。」と話されていました。各々が受けた教育に基づいて、それぞれが意見を交わしたのだと思うとのことでした。海外の学生は、彼らが受けてきた教育に基づいて意見を述べた。同知事は、被爆について長崎で受けてきた教育を基にして話したに過ぎないと。この経験から、同知事は、受けてきた教育を基に「対話」が双方の理解を深め、一緒に何かを進めて行く上で合意形成される必要があると述べています。更に、その対話の質は「言葉」の力の強さが非常にあるとも語っておられ、言葉は「命をつなぐ力を持ったもの」と話されていました。ただ、それで終わらず「対話だけでも解決できない問題もたくさんある」と、現実の難しさも述べておられます。だからこそ、それ以上に人との繋がりの重要さも指摘されています。

本校で行なっている教育をより大切にして、日本でしか学べない教育、枚方市民としてしか学べない教育を基に、子ども達がまずは、家庭の平和をつくる大人になって欲しいと思います。家庭で、対話を、地域でも言葉を磨き対話を積み重ねていきましょう！

【参考】

平和への誓い（NHKhpから） https://www3.nhk.or.jp/news/html/20250809/k10014889521000.html

長崎市　平和宣言https://www.city.nagasaki.lg.jp/page/4920.html

長崎県　被爆80周年長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典慰霊の詞https://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/hukushi-hoken/genbaku/kennminpinorinohi/kieneisikiten/741563.html#:~:text=あの日から80年,願ってやみません%E3%80%82

校内研究テーマ「非認知能力を育む授業改善の手立ての研究」～成長の見取り方の育成～
西長尾７つの力「自制心・忍耐力・向上心・自尊心・協調・受容、共感・相互理解」